



水田におけるサトイモ栽培マニュアル



2024年3月

埼玉県農業技術研究センター

内容

1	はじめに.....	2
2	圃場の選定・準備.....	3
2-1	圃場の選定.....	3
2-2	圃場の準備.....	3
3	品種の選定.....	4
3-1	「蓮葉芋」と「土垂」.....	4
3-2	‘丸系八つ頭’.....	5
4	種芋の選別・種芋消毒.....	6
5	施肥・病虫害防除.....	6
5-1	施肥.....	6
5-2	有機物の施用について.....	7
5-3	病虫害防除.....	8
6	植え付け・畝立て.....	9
6-1	栽植密度.....	9
6-2	植付け方法.....	9
6-3	使用できる機械.....	9
6-4	被覆資材（マルチ）について.....	11
7	灌水について.....	12
8	収穫作業について.....	12
9	経営試算について.....	14
9-1	平畝マルチャ+掘取機.....	14
9-2	平畝マルチャ+サトイモ収穫機.....	14
9-3	2軸マルチロータリ+収穫機.....	14
10	次作の準備；種芋の貯蔵.....	15
10-1	穴貯蔵.....	15
11	水田圃場での連作可能性.....	16
12	栽培暦.....	17

免責事項

本マニュアルに掲載されている情報を利用することで発生した
紛争や損害に対し、埼玉県は一切の責任を負いません。

1 はじめに

埼玉県におけるサトイモ生産は、県南部の畑作地帯を中心として広がっています。また、県北部の深谷市を中心に、県が育成した「丸系八つ頭」の生産も行われています。

令和4年産野菜生産出荷統計（農林水産省）では本県におけるサトイモの収穫量は17,900 t、また、令和4年産農業所得統計（農林水産省）では、サトイモの産出額は44億円となっており、どちらも全国1位に位置しています。本県においてサトイモは、重要な野菜品目の一つとなっております。

さて、主食用米の需要が減少傾向にあるなか、国を挙げて水田農業の高収益化が進められており、サトイモの作付けも有用です。そのような流れの中で、サトイモを水田圃場で生産するメリットとしては、まず生育期に必要なタイミングで引水できることが挙げられます。サトイモは植物体としても水を好む植物です。十分な灌水量を確保できることで、芽無しや、ひび割れのない肌艶の良い芋を生産することができます。また、灌水量が確保され光合成も盛んになると、転流が促進され、芋の食味も向上することが知られています。

本マニュアルは、2019年度～2023年度に渡る5か年の試験結果を基に、埼玉県の水田圃場でサトイモを栽培するために必要な事項を分かり易くまとめたものです。本マニュアルが水田の有効活用や水田農業の高収益化の一助となれば幸いです。

2 圃場の選定・準備

2-1 圃場の選定

下記の条件を満たすような圃場を選定します。

①夏場の乾燥期に十分な畝間灌水量が確保できる。

②排水性が良く、雨水が長期間停滞しない。

※排水路が詰まるなどして排水不良となると写真 1 のように滞水してしまいます。

③膨軟な土壌で深耕や砕土、畝立てが可能。

④日当たりが良い。

2-2 圃場の準備

溝掘機や管理機等により圃場の周辺部を額縁状に掘ることで、畝間灌水や排水を効率化できます。額縁水路は必ず排水口と畝間水路に繋がります。取水口から直接サトイモに水がかかると生育が劣るため、波板等を設置し、直接水がかからないようにします(図 1)。

排水が劣る圃場では、弾丸暗渠の施工を検討します。本暗渠がある場合は交差するように、2~3m 間隔で、サブソイラー等により 30cm 程度の深さに弾丸暗渠を設置します。水稻作を予定する圃場では、耕盤破碎により漏水が大きくなることがあるので注意してください。

均一な畝間灌水を実施するために、圃場の均平に留意して耕うんします。耕深は 10~12cm、砕土率は 60%以上を目標にします(写真 2)。

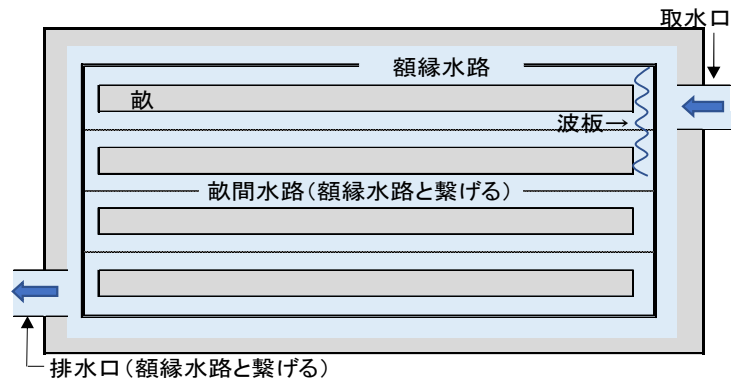


図 1 水田におけるサトイモ栽培圃場の一例



写真 1 排水路から水が抜けない圃場の様子



※赤線: 30cm

写真 2 砕土率 60%以上の土壌表面

3 品種の選定

3-1 「蓮葉芋」と「土垂」

サトイモ (*Colocasia esculenta* Schott) は、主に子芋や孫芋を食用とする子芋・孫芋型品種や、親芋を食用とする親芋型の品種、葉柄を食用とする品種など、多数の品種が存在しています。その中で、本県の畑作地域では、子芋・孫芋型品種である「蓮葉芋」や「土垂」が栽培されています。これらの品種に「石川早生」「セレベス」を加えて、農業技術研究センター玉井試験場（熊谷市玉井）（以下、玉井試験場）の水田圃場での適応性を確認しました。

「土垂」では障害芋率が高くなりますが、収穫量と秀品量をみると「蓮葉芋」「土垂」は水田圃場における適応性が高いと判断されました（図 2）。水田圃場で栽培する品種選定の参考としてください。

水田の土質によっては、収穫のとき株に土が付着して重くなり、手作業での掘り取りが重労働となります。玉井試験場圃場で掘り上げた株に付着する土量（抱土量）は、多いもので9 kg 以上となる株もありました（図 3）。株の持ち運び等に係る作業について、腰等に無理な負荷がかからないよう作業姿勢に注意してください。

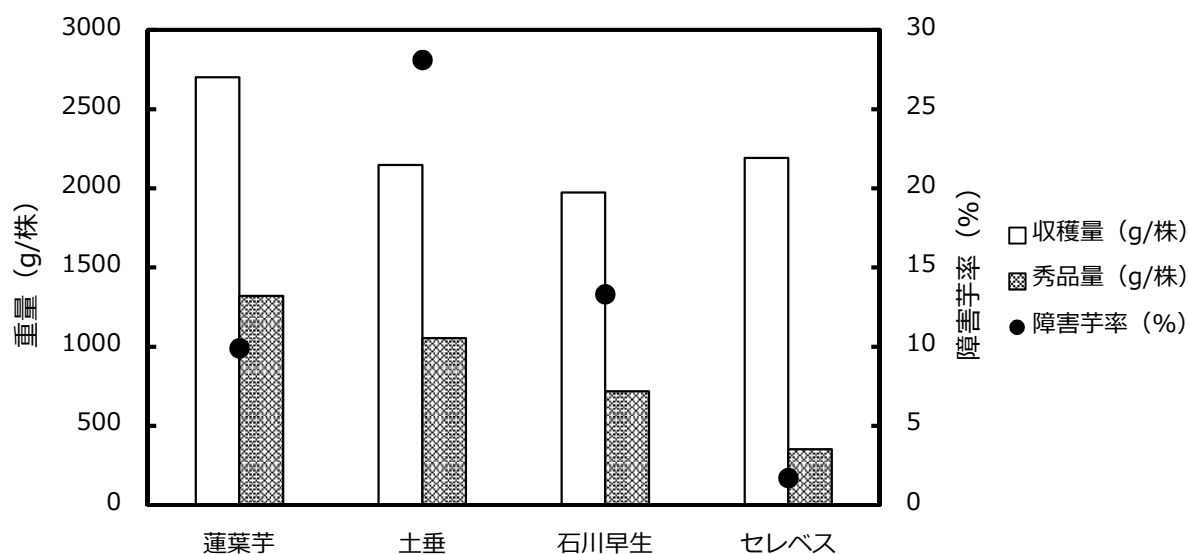


図 2 品種の違いが収穫量、秀品量、障害芋率に及ぼす影響

玉井試験場の水田圃場で試験を行った結果です。収穫量は 2019 年、秀品量および障害芋率は 2020 年の試験結果を表しています。

秀品量：孫芋およびひ孫芋について、外観良好かつ 10 g 以上の芋の合計

障害芋率：芽無しや割れ、青芋などの芋の株当りの重量割合

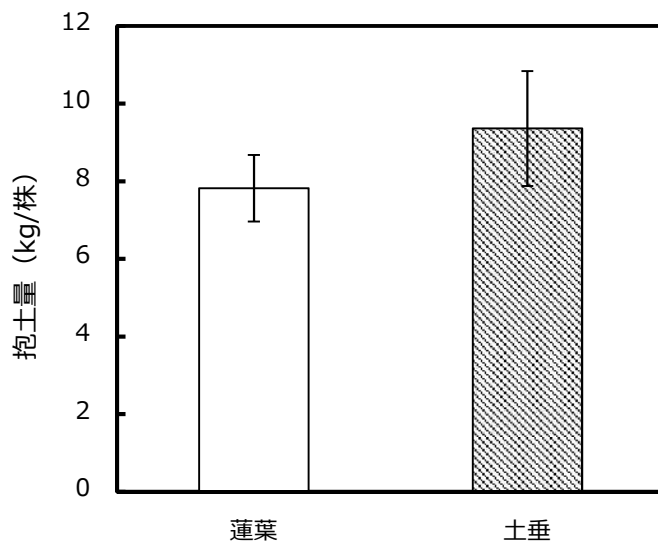


図 3 品種の違いが抱土量に及ぼす影響

2023 年の玉井試験場水田圃場での試験結果をまとめたものです (n = 60)。
 分球芋の周りに付着する土の量を 1 株当りの抱土量 (kg) として表しました。
 エラーバーは標準誤差を示す

3-2 ‘丸系八つ頭’

本県で育成した‘丸系八つ頭’は「八つ頭」の仲間ですが、親芋が多芽にならずに球形となる特徴があります。この‘丸系八つ頭’を 2023 年に玉井試験場水田圃場で平置き高畝栽培 (株間 35 cm) すると、親芋重が 418.8 ± 35.5 g (平均 \pm 標準誤差) となりました。また、図 4 のように親芋の基部が細長く伸びますが、肥大部分は縦横比がほぼ 1 の球形となりました。

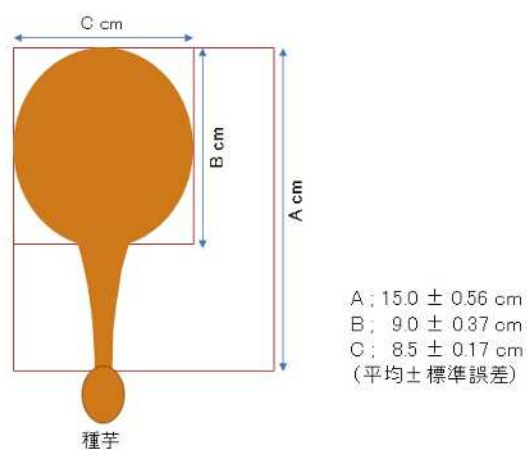


図 4 平置き高畝栽培で生産される‘丸系八つ頭’の親芋のイメージ

4 種芋の選別・種芋消毒

芋重約 60 ～80 g 程度かつ傷や腐敗、芽無などのない外観良好なものを選びます。また、種芋の選別は、サトイモ疫病対策の一環で行う水選別と合わせて実施すると効率的です。水選別とは、水を張った桶やバケツに種芋を入れ、種芋の種皮に付着する土を除去するとともに、内部が腐敗している芋は水に浮くため、傷んだ種芋を選別できます。

サトイモ疫病は、他県主要産地では 2015 年から、本県では 2019 年から発生が確認されているサトイモのみに罹病する病害です。罹病した種芋から感染が拡大する危険があるため、無病の健全な種芋を選ぶ必要があり、併せて種芋消毒を実施することでその危険性を可能な限り下げることができます。

有効成分であるチウラムを含むベンレート T 水和剤 20 を用いて種芋消毒を行います。農薬の使用に当たっては、ラベルをよく確認してください（表 1）。

農薬による種芋消毒の前に種芋の洗浄を行い、芋の表面に付着する土を洗い落してから、農薬を使用すると効果を高めることができます。

表 1 ベンレート T 水和剤 20 の適用情報

作物名	適用病名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
さといも	疫病	20	-	植付前	1 回	1 分間の種芋浸漬

チウラムを含む農薬の総使用回数：1 回、ベノミルを含む農薬の総使用回数：1 回
情報確認日：2024 年 3 月（確認元；農薬登録情報提供システム、農林水産省）

5 施肥・病害虫防除

5-1 施肥

成分量で N - P₂O₅ - K₂O = 20 - 20 - 20 kg/10 a 施用します（施肥例：表 2）。高畝マルチで土寄せを行わない栽培体系のため、元肥は緩効性肥料を利用して一度にまとめて施用することで追肥に係る労力を省力化できます。被覆窒素肥料のリニア型 100 日タイプやシグモイド型 100 日タイプなどを施用することで収穫量を確保できます（図 5）。また、作付けの前に、土壌診断によって土壌の状態を確認しておくとい良いでしょう。

表 2 施肥例 (元肥)

肥料名	量 (kg/10a)	成分 (N-P-K kg/10a)
LP コート 100 (42-0-0) ^{a)}	4 8	2 0 - 0 - 0
過リン酸石灰 (0-17.5-0)	4 0	0 - 7 - 0
ようりん (0-20-0)	6 5	0 - 1 3 - 0
塩化カリ (0-0-60)	3 3	0 - 0 - 2 0

^{a)} 溶出タイプ：リニア型

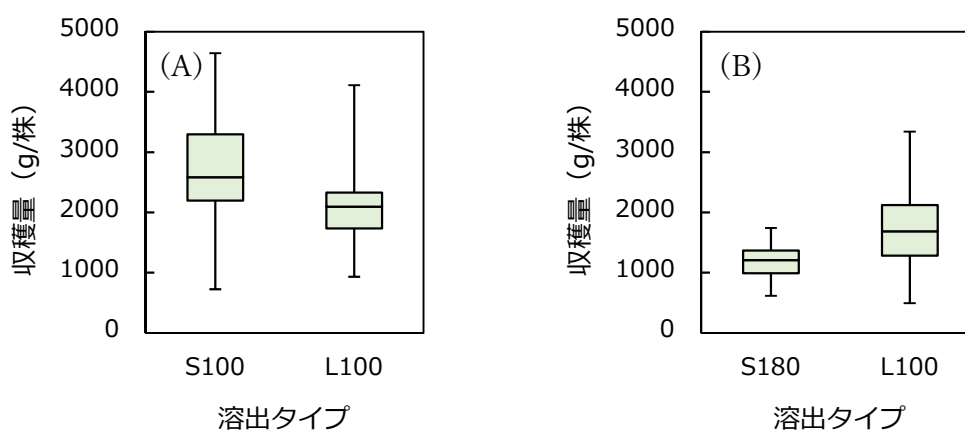


図 5 被覆肥料の溶出タイプの違いが収穫量に及ぼす影響 (供試品種「土垂」)


(A)はシグモイド型 100 日タイプ (S100) とリニア型 100 日タイプ (L100)、(B)はシグモイド型 180 日タイプ (S180) とリニア型 100 日タイプ (L100) を比較しました。どちらも玉井試験場の圃場で、(A)は 2022 年、(B)は 2023 年に実施した結果です。被覆肥料に、過リン酸石灰、ようりん、塩化カリを加え、成分量で N - P₂O₅ - K₂O = 20 - 20 - 20 kg/10 a に調整して試験を実施しました。

5-2 有機物の施用について

一般に、水田は畑地と比較して、粘土質で土壌が硬く、サトイモの泥落ちが悪くなります。堆肥等の有機物施用は地力の維持・向上のほか、土壌の膨軟化にも有効です。

玉井試験場で実施した試験では、堆肥や稲わら等の有機物連用により、収穫時の土塊が小さくなる傾向がありました (図 6)。また、土壌が軽く、仮比重が低い圃場では、機械収穫時のサトイモに付着する土壌が少ない傾向にあり、収穫・調製作業のうえで有利でした (図 7)。

堆肥等を施用する場合は、主要農作物施肥基準を参考に、有効成分等を考慮して施用量を調整し、植え付けの 2 週間以上前に施用しましょう。

<p>2次元コード</p> 	<p>(参考)</p> <p>埼玉県主要農産物施肥基準 (2013 年)</p> <p>県ホームページ URL</p> <p>https://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/sehikijun.html</p>
---	--

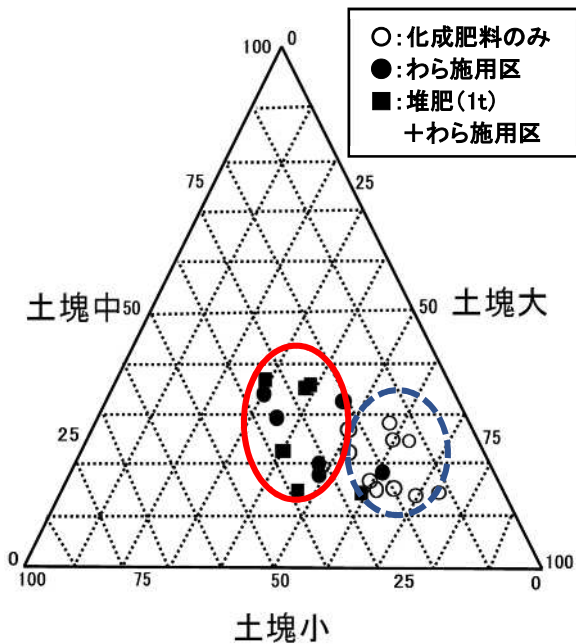


図 6 有機物連用と収穫時の土塊分布の関係

注) 土塊小 : 5.0 mm 以下、土塊中 : 5-15.9 mm、
土塊大 : 15.9 mm 以上 (ポット栽培)

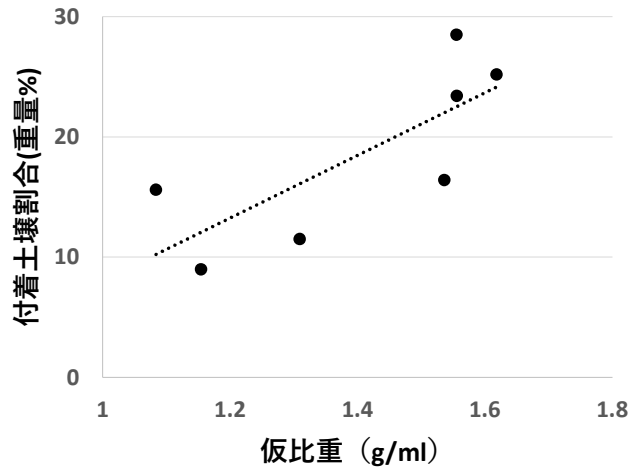




図 7 土壌の仮比重と機械分離後のサトイモに付着する土壌割合の関係

注) 収穫時土壌水分 25%以下

5-3 病害虫防除

植え付け前の圃場づくりで肥料を散布するのに合わせて、アブラムシ対策としてアセタミプリド粒剤やイミダクロピリド粒剤を散布します。また、湛水処理を行わず畑地として数年間使用し、線虫などの発生が懸念される場合は、カズサホスマイクロカプセル剤などを施用しましょう。

生育期 (本葉 4 枚以降) になると、スズメガやハスモンヨトウの幼虫による食害が発生するため、ペルメトリン乳剤やピリダリル水和剤を散布してください。また、梅雨時期以降になるとサトイモ疫病の発生も懸念されるため、マンゼブ水和剤やシアゾファミド水和剤での予防や、もしも発生を確認した場合は、アゾキシストロビン水和剤、アミスルブロム・シモキサニル水和剤、ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤によるローテーション散布することで疫病の蔓延を防ぐことができます。農薬をローテーションする場合は、作用機構分類を参考に、同じ分類の農薬が連続しないように散布してください。また、サトイモの葉は撥水性が高く、薬剤が付着しにくいいため機能性展着剤を加えて散布します。但し、サトイモ葉は薬害が発生しやすいので、高温時の散布は避けます。

2次元コード		(参考)
		JCPA 農薬工業会ホームページ 「RAC コード (農薬の作用機構分類)」 https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism/html
殺菌剤	殺虫剤	

6 植え付け・畝立て

6-1 栽植密度

畝間 120～140 cm、株間 30 cm。10 a 当たり 2,300～2,800 株程度とします。

6-2 植付け方法

植え付けを行う圃場に 15 cm の溝切を行い、芽を横または上向きになるよう種芋を置きます（写真 3）。ただし、このまま培土を行うと種芋が引っ張られ、位置が地表近くや横にずれるなど、株間が均一にならないことがあります。畝立ての前に、溝に置いた種芋を上から軽く踏み、種芋が動かないように固定することで回避できます。

畝は、種芋から 20 cm 強の高畝にして（写真 4）、マルチを張ります。



写真 3 溝に種芋を置いた様子



写真 4 高畝（赤枠が種芋）

6-3 使用できる機械

中央部を攪拌しない畝立マルチャ（写真 5）を用いると、溝に置いた種芋を傷付けることなく、省力的に畝立およびマルチ展張が可能です。



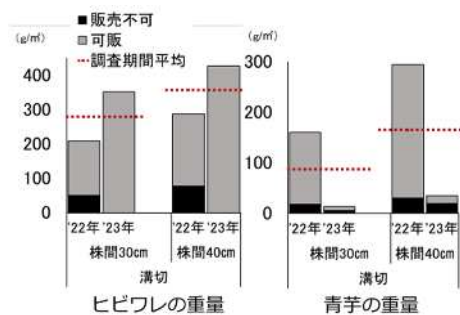
例. 二軸マルチロータリ (RT-2D 型)

写真 5 畝立て・マルチング

株間を 30 cmにする理由

①障害芋の発生を抑制するため

株間 30 cm と狭めに設定することで、高畝による株の過大化を防ぎ、障害芋（ヒビワレ芋、青芋）が減少します（右図）。



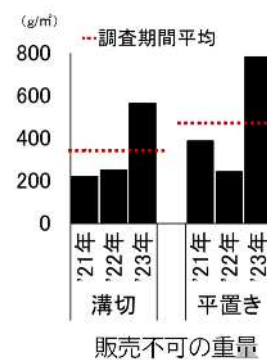
溝切を行う理由

①植付深さを確保するため

植付深さを 20 cm 強にすることで、重量不足による販売不可量が減少します（右図）。

②（土が細かくなりにくい土質で）種芋と土壌との空間を埋めるため

碎土が細かく出来ない場合も、溝切することで、種芋と土壌との間に空間をできにくくし、発根後の活着が促進します。



6-4 被覆資材（マルチ）について

初期生育の促進と、雑草の発生を抑制するためにマルチ（幅 135 cm）を張ります。主なマルチの種類は以下のとおりです。参考にしてください。

表 3 マルチの種類とその特徴について

マルチの種類	特徴
<p>ポリマルチ（黒）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐久性が高く、抑草効果が高い ・サトイモの芽が自力でマルチを突き破れないため、芽出し作業が必要 ・収穫時にマルチ剥がしが必要
<p>生分解性マルチ（黒） （分解期間 2～3 か月）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・破れやすいので、芽出し作業は不要 ・破れや崩壊した箇所から雑草が発生する可能性がある ・収穫時には崩壊が進むため、マルチ剥がしは不要
<p>生分解性マルチ（黒） （分解期間 3 か月以上）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチを突き破れない株があるため、芽出し作業の必要な場合がある。芽出しが遅れると、高温日に芽を焼いてしまうので、特に注意が必要 ・分解期間が短いタイプより、抑草効果は高い ・収穫時には崩壊が進むため、マルチ剥がしは不要

7 灌水について

灌水管理は、サトイモの収量確保や障害芋（「ヒビワレ」「二次成長」など：写真 6）発生防止のためにとっても重要です。

6月中旬から9月末まで（葉数3枚頃から芋肥大期まで）、畝間灌水（写真 7）を行い、常に畝を乾燥させないようにします。特に、水田での高畝マルチ栽培は、通路が濡れていても畝内が乾燥していることがあり注意が必要です。「通路の滞水がなくなったタイミングで、水深15cm程度になるまで流水する」など、定期的に灌水しましょう。

水が圃場全体に均一に流れるように、水口から各畝へ流水する通路を作ります（図 1）。各畝への流水量が大きく異なる場合は、畝の手前に盛土や波板を設置し流水量を調節しましょう。



写真 6 ヒビワレ（左）と二次成長（右）



写真 7 畝間灌水

8 収穫作業について

通常、「蓮葉芋」は10月、「土垂」は11月から収穫を行います。収穫は、地上部を葉柄1~2cmを残して刈り取り、①トラクタに掘取機を装着して株ごと掘り起こし分離作業を行うか、②掘上・分離連動型のサトイモ収穫機で掘り起こしと分離作業を行うかの2通りの方法で行うことができます。分離機の例は表4のとおりです。なお、①の作業方法で、重粘土の場合は、振動式掘取機を使うと土離れが良くなります（写真8）。



例. バイブrosーパーソイラー(SV2)

写真 8 振動式掘取機

表 4 分離機の例

機械名 型番	サトイモ収穫機 TRS-1CA, HTKH 	サトイモ分離機 BKC1 	サトイモ分離機 KNOS1 
製造元 販売元	ヤンマーアグリ株式会社	川辺農研産業株式会社 株式会社クボタ	株式会社ちくし号農機製作所 株式会社クボタ
おすすめ 対象者	・掘上と同時に分離作業がしたい ・年内出荷が主 ・掘取機を所持していない	・圃場と作業場の両方で分離作業したい ・年内出荷、年明け出荷いずれも分離機で分離したい	・作業場で分離作業したい
駆動方式 分離機構	PTO駆動 左右押圧型 掘上・分離連動型	PTO駆動 左右押圧型 分離独立型	エンジン 上下押圧型
必要最小 人数 収穫作業 時間 (掘り上げ、分解、 収穫物の搬出含む)	1人 29～37 時間 /10a・1人	2人 11～27 時間 /10a・2人	2人 34～45 時間 /10a・2人
販売不可 の損傷割合(%) ※灰色低地土	5.4～22.4	0.9～21.3	5.6～19.7
備考		株の掘り上げに掘取機が必要	株の掘り上げに掘取機が必要

9 経営試算について

9-1 平畝マルチャ+掘取機

慣行栽培で生産者が利用している平畝マルチャで種芋を定植し、生育途中に追肥・土寄せを行います。

収穫作業は、慣行栽培で生産者が利用している掘取機を使用し、株を掘上げて手作業で親芋から子・孫芋を分離するため、収穫時の芋の損傷は、ほとんどありません。

一方で、掘上げた株に付着した土壌を手作業で落とすため、作業時間が大幅に増加します。

収穫時の芋の損傷が少ないため、収量が多く、粗収入が増加します。しかし、労働時間の増加に伴い雇用労賃が 126,100 円、家族労賃が 183,000 円となり、経営費が高くなります。

表 3 平畝マルチャ+掘取機利用の経営指標

項目	
収量 (kg)	3,370
平均単価 (円/kg)	230
粗収入 (円)	775,100
経営費 (円)	457,200
償却費 (円)	72,400
家族労賃 (円)	183,000
農業所得 (円)	62,500
労働時間 (時間)	218

9-2 平畝マルチャ+サトイモ収穫機

慣行栽培で生産者が利用している平畝マルチャで定植し、生育途中に追肥・土寄せを行います。

収穫作業は、サトイモ収穫機 (写真 8) を使用して掘上げ、左右の押圧ベルトで親芋と子・孫芋を分離しながら株に付着した土壌も落とすことができますが、ベルトを押し当て芋を分離するため、芋の損傷が 10%程度発生します。

株の掘上げ、親芋からの子・孫芋の分離と株に付着した土壌を落とす作業を同時に行うため作業時間が大幅に短縮します。収穫時の芋に損傷が生じるため可販収量は、慣行の掘取機に比べて減少します。サトイモ収穫機を新規に購入するため償却費が

増加しますが、労働時間は減少し、雇用労賃が 93,100 円、家族労賃が 120,800 円となります。雇用労賃と家族労賃の合計は、「9-1 平畝マルチャ+掘取機」と比較すると 95,200 円減少します。

表 4 平畝マルチャ+収穫機利用の経営指標

項目	
収量 (kg) ^{a)}	2,950
平均単価 (円/kg)	230
粗収入 (円)	678,500
経営費 (円)	410,800
償却費 (円)	99,400
家族労賃 (円)	120,800
農業所得 (円)	47,500
労働時間 (時間)	154

^{a)} 平畝マルチャ+掘取機の収量に対して損傷率 12.5%で計算

9-3 2軸マルチロータリ+収穫機

2軸マルチロータリ (写真 5) で高畝にして種芋を定植します。高畝にして緩効性肥料を使用することで、追肥・土寄せ作業を行わないため、作業時間が短縮します。

収穫作業は、サトイモ収穫機 (写真 8) を使用し掘上げ、左右の押圧ベルトで分離しながら株に付着した土壌も落としますが、芋の損傷が 10%程度発生します。

株の掘上げ、親芋からの子・孫芋の分離と株に付着した土壌を落とす作業を同時に行うため作業時間が大幅に短縮しますが、収穫時の芋に損傷が生じるため可販収量は、慣行の掘取機に比べて減少し

ます。

2軸マルチロータリ及びサトイモ収穫機を新規に購入するため償却費が増加しますが、労働時間は減少し、雇用労賃が77,100円と家族労賃が112,800円となります。雇用労賃と家族労賃の合計は、「9-1平畝マルチャ+掘取機」と比較すると119,200円減少します。

表5 2軸マルチロータリ+収穫機利用の経営指標

項目	
収量 (kg) ^{a)}	2,950
平均単価 (円/kg)	230
粗収入 (円)	678,500
経営費 (円)	409,000
償却費 (円)	102,700
家族労賃 (円)	112,800
農業所得 (円)	54,000
労働時間 (時間)	134

^{a)} 平畝マルチャ+掘取機の収量に対して損傷率12.5%で計算

10 次作の準備；種芋の貯蔵

サトイモ「土垂」、「蓮葉芋」の最適貯蔵湿度は、温度が8～15℃程度、湿度は80～90%程度です。この条件を満たすために、以下の2つの貯蔵方法があります。

10-1 穴貯蔵

12月上旬までに地下水位が高くなく、雨水が流れ込まない場所に深さ70cm～120cm程度の貯蔵穴を準備します。親株から子芋等はずさず、芽が上向きの株と下向きの株が交互になるように穴に積み重ねて上に稲わらを敷き、土をかけ、雨除けをして貯蔵します(図8)。穴が全て埋まらない場合は、空間に面する部分を稲わらで覆い土をかけ、株が露出しないようにします。

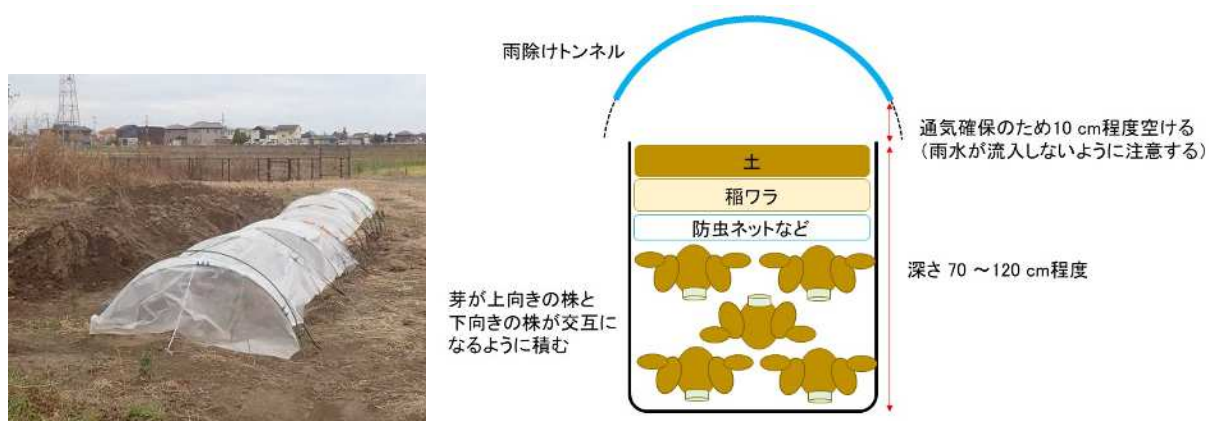


図8 雨除けトンネル(左写真)と穴貯蔵方法の一例(右図)

10-2 パイプハウス内での貯蔵

農POフィルムをハウス全面に展張するとともに、ハウスやコンテナ内部の急激な温度上昇や湿度低下を抑制するため、ハウス内部に遮光網を展張します。

芋の貯蔵方法は、①親株から子芋等はずさず積み重ねて、多層断熱被覆資材を被せる方法と、②種芋を分解して、太陽光に1日程度当ててかけ口を乾燥させ、コンテナに収納し、多層断熱被覆資材

を被せる方法があります。ただし、パイプハウス内での貯蔵は、腐敗や内部変異が5%程度、芽の過剰伸長が5%程度発生する可能性があります。

11 水田圃場での連作可能性

水田圃場の場合、「蓮葉芋」「土垂」いずれの品種も連作を行うと収穫量は増えました（図 9）。この理由としては、前作肥料の残りや、根圏形成や土壌への有機物（残渣）がすき込まれることの影響が考えられます。しかし、3年連作、4年連作と連作の年数が増えるに従い、収穫量が減少するため、連作を行う場合は2年までが適当と考えられ、3年以上の連作は避けた方が良いでしょう。

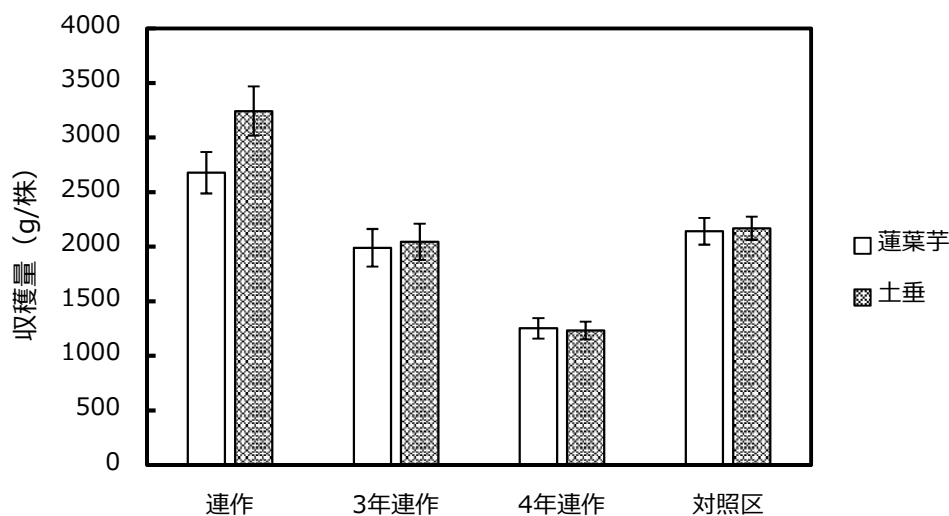


図 9 連作が収穫量に及ぼす影響

玉井試験場水田圃場において、2021年～2023年に実施した試験の結果をまとめてグラフに示しました。

前作までに何も作付けしていない圃場を対照区としました。

エラーバーは標準誤差を示す

12 栽培暦

埼玉県 水田におけるサトイモ栽培暦

作成 2024年3月
埼玉県農業技術研究センター

月旬	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育・作業				植付			出芽期			生育期												収穫期								
	種芋の選別・消毒			(植付) 溝に種芋を置く																		種芋貯蔵の準備・種芋の確保								
作業のポイント	圃場の選定・準備			圃場・種芋の準備						栽培管理												収穫・貯蔵								
	圃場の選定・準備			圃場・種芋の準備						栽培管理												収穫・貯蔵								
作業別機械(例)	畝立て・マルチング									収穫・分離作業に使用できる機械の一覧(例)																				
	畝立て・マルチング									収穫・分離作業に使用できる機械の一覧(例)																				
二軸マルチロータリ(RT-2D型)									振動式掘取機 ハイクレスパーソニス(SV2)			サトイモ収穫機 TRS-1CA, HTKH			サトイモ分離機 BKC1			サトイモ分離機 KNOS1												
																														
PTO駆動(振動)トラクタ牽引									PTO駆動(振動)トラクタ牽引			PTO駆動 左右押圧型 掘上・分離連動型			PTO駆動 左右押圧型 分離独立型			エンジン駆動 上下押圧型												

〈水田におけるサトイモ栽培マニュアル〉

2024年3月

執筆：野菜育種担当	道祖土博一
高収益畑作担当	石田 紘子
環境安全担当	高橋 純司
農業革新支援担当	岩元 篤

問い合わせ先：

埼玉県農業技術研究センター
〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
TEL 048-536-0312（企画担当） FAX 048-536-0315